# パリ協定6条のルールメイキングの最新動向

気候変動とエネルギー領域
副ディレクター

髙橋健太郎

IGES
公益財団法人
地球環境戦略研究機関

# 本日の流れ

1. 2022年のカーボンクレジットの動向と重要なポイント
2. パリ協定6条交渉の状況
3. パリ協定6条2項のポイント
4. パリ協定6条4項のポイント

# 本日の流れ

1 2022年のカーボンクレジットの動向と重要なポイント

2 パリ協定6条交渉の状況

3 パリ協定6条2項のポイント

4 パリ協定6条4項のポイント

# カーボンクレジットの重要なポイント

## 高品質なクレジット

G7 GERMANY 2022

クレジットの品質に言及

QUAD Leaders' Meeting TOKYO2022

ICVCM
CCP

略語：Integrity Council for the Voluntary Carbon Market（ICVCM：自主的炭素市場のための十全性評議会）
Core Carbon Principle（コアカーボン原則）

## 情報開示

IFRS

SEC

どんなクレジット？
クレジット使用量は？

## インフラ

Climate Action Data Trust
Climate Warehouse
Digital Ecosystem

10/26設立

登録簿

GXリーグ

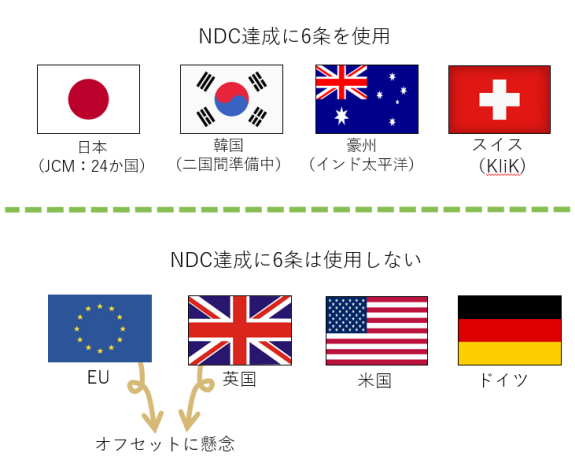
略語：国際財務報告基準（IFRS）、米国証券取引委員会（SEC）

# カーボンクレジットの最新動向

## 自主的炭素市場の取引量が増加しているものの、需給バランスに注意

### 6条

- 6条に参加する国（主に途上国）は増えつつあるが、短期的には供給量が少ない。
- 供給に影響を与える要因
  6条2項：相当調整、各国における体制
  6条4項：監督機関によるルール整備
- 需要に影響を与える要因
  先進国のNDC達成計画




### 自主的炭素市場

- 当面の間、自主的炭素市場で取引されているクレジットが主要な供給源。
- 供給に影響を与える要因
  クレジットの品質に関する基準（ICVCM）
- 需要に影響を与える要因
  削減主張に関する基準（VCMI）や各国における規制・政策動向

出典：Ecosystem Marketplace, Aug 2022

略語：NDC（Nationally Determined Contribution：自国が決定する貢献）

# 本日の流れ

1 2022年のカーボンクレジットの動向と重要なポイント

2 パリ協定6条交渉の状況

3 パリ協定6条2項のポイント

4 パリ協定6条4項のポイント

# パリ協定6条交渉の現状

COP26で大枠のルールが決定！！

2021年の交渉は
**政治的**

2022年の交渉は
**技術的**

# 数字で見る2022年の6条交渉

| 技術ペーパーの合計ページ数 | 専門家ワークショップの合計時間 | 文書で提出された意見数 |
| --- | --- | --- |
| 248 | 55<br>（15回） | 61 |

詳細かつ専門的。
（実施に向けて着実に議論が進む）

# COP27の6条交渉スケジュール（見込み）

## 1週目（11/6～12）

**開会プレナリー**
（11/6）

夕刻に第1回目の交渉開始？

**世界リーダーズサミット**
（11/7-8）

首脳級が集結
（新たな発表等）

**70か国**
（10月17日時点）

**SBSTA（科学上及び技術上の助言に関する補助機関会合）**
**SBI（実施に関する補助機関会合）**
（11月7-12日までに専門家で技術的な論点について議論し、CMAで採択する文書案を作成）

パリ協定６条関連会合で、合計20時間程度の交渉？

コンタクトグループ会合（交渉全体概要を話す） → 6条交渉官非公式会合（専門家レベル） → コンタクトグループ会合（技術レベル議論終了）

**SBSTA/SBI閉会プレナリー**
（11/12）

テキストは3-4回更新？

## 2週目（11/14～18）

**閣僚級のイベント開催（6条以外）**
（11/14）

専門家レベルで、非公式に引き続き議論か？

**ハイレベルセグメント**
（11/15-16）

大臣レベルが集結

（新たな発表等）

- 昨年は閣僚レベルで議論を実施したが、 第2週目にパリ協定6条に関する議論をどれだけ確保できるかは不明。
- COP27では適応、資金が優先のため、議長の采配に注目。
- 6条の中で、優先度の高いものだけ決定か。

11月14-17日の間に3～4回テキスト更新？

**閉会プレナリー**
（11/17-18）

**延長？**
（11/19？）

略語 SBSTA（Subsidiary Body for Scientific and Technological Advice）、SBI（Subsidiary Body for Implementation）

# COP27における6条決定事項（見込み）

10月25日にUNFCCCが非公式文書（決定要素案）を発表。

6条2項：https://unfccc.int/sites/default/files/resource/Article%206.2_SBSTA_INFORMAL%20document.pdf
6条4項：https://unfccc.int/sites/default/files/resource/Art.6.4_SBSTA_Chair_Info_note.pdf

## 6条2項

優先度高

- クレジットの報告方法（様式と表）
- 審査のガイドライン
- クレジットを管理するシステムの仕様

2023年決定？
- LDC・SIDSの特別配慮
- 相当調整の方法の更なるガイダンス
- 排出回避をITMOsに含めるか

略語
LDC：Least Developed Countries（後発開発途上国）
SIDS：Small Island Developing States（小島嶼国）
ITMOs： Internationally Transferred Mitigation Outcomes (ITMOs)（国際的に移転された緩和成果）

## 6条4項

優先度高

- CDM活動の移管手続き
- CER（クレジット）の移管手続き
- 6.4項クレジットの報告
- 6.4項クレジットを管理するシステムの仕様
- SOPの手続き
- OMGEの手続き

2023年決定？
- 監督機関とホスト国の役割
- 排出回避及び保全強化活動を対象とするか

略語
CDM：Clean Development Mechanism（クリーン開発メカニズム）
CER：Certified Emission Reduction（認証削減量）
OMGE：Overall Mitigation in Global Emissions（世界全体の削減）
SOP：Share of Proceeds（費用）

# 本日の流れ

1 2022年のカーボンクレジットの動向と重要なポイント

2 パリ協定6条交渉の状況

**3 パリ協定6条2項のポイント**

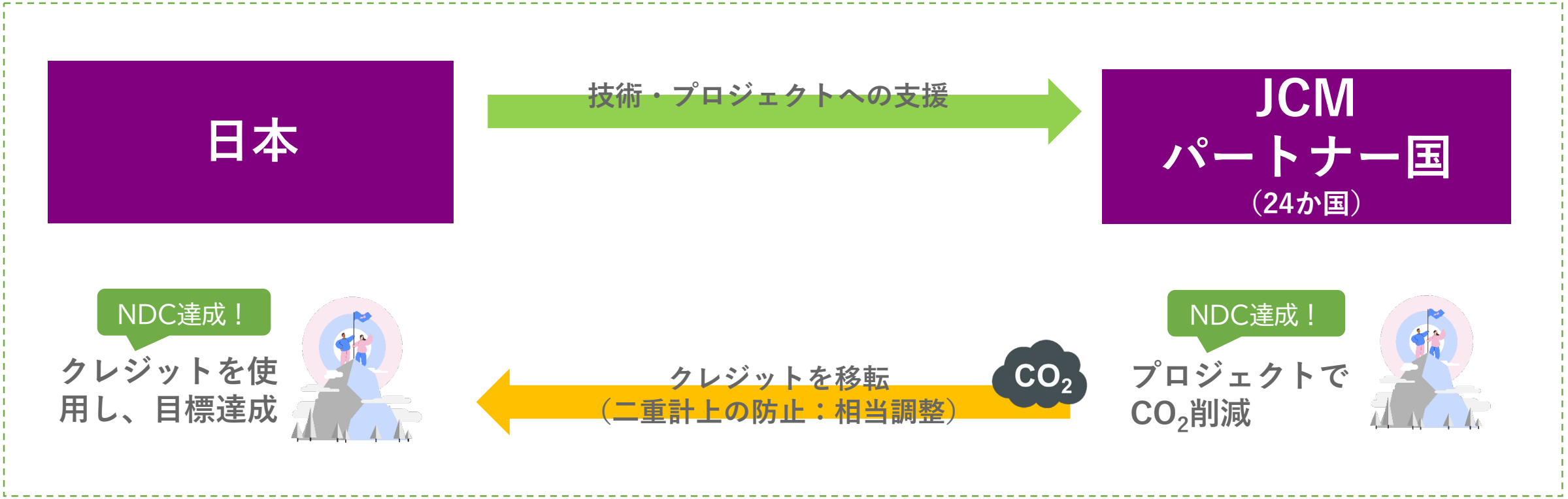
4 パリ協定6条4項のポイント

# 6.2項のおさらい

**6.2項：国際的に移転したクレジット（二国間や6条4項のクレジット等）を排出削減目標（NDC）の達成に使用するための枠組み**

（日本の場合）

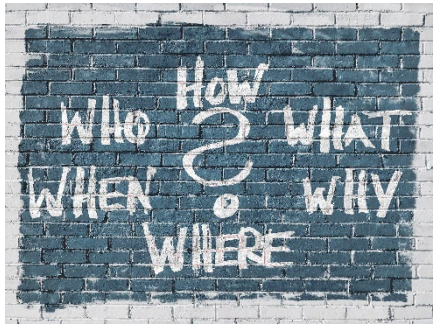
略語：二国間クレジット制度（Joint Crediting Mechanism（JCM））




（相当調整）パリ協定第６条及び関連する決定に従って、二重計上を防止するために、クレジットを獲得した国が同国の NDC の達成に活用するため、同国の NDC の対象となる温室効果ガス排出量からクレジットを差し引き、クレジットを国際移転した国が同国のNDCの対象となる温室効果ガス排出量にクレジットを加算し、それぞれの排出量を調整すること。

# ポイント1：報告

## COP27の交渉では、“報告方法”を議論！



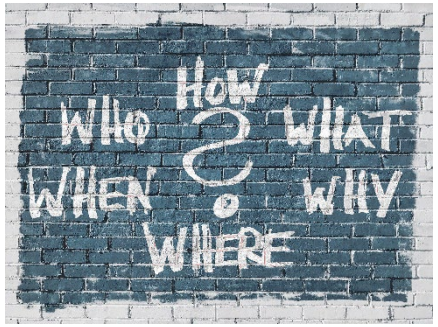

グラスゴーで合意済

（2024年末までに6条参加国は報告が求められるため優先度が高い）

| | |
|---|---|
| Who？ | 6条に参加する国（例：日本とJCMパートナー国） |
| How？ | **報告様式と表（COP27で決定予定）** |
| What? | 移転・獲得したクレジットの情報、クレジット制度の詳細など |
| When? | 初期報告：2023年～2024年末までの間<br>年次情報：2023年以降、毎年<br>定期情報：2024年末以降、2年毎（2026年末、2028年末…） |
| Where? | 国連気候変動枠組条約（UNFCCCC）事務局 |
| Why? | **環境十全性のチェック（クレジットの質）、透明性確保（情報開示）、二重計上の防止** |

# ポイント2：審査

## ▶COP27の交渉では、“審査方法”も議論！



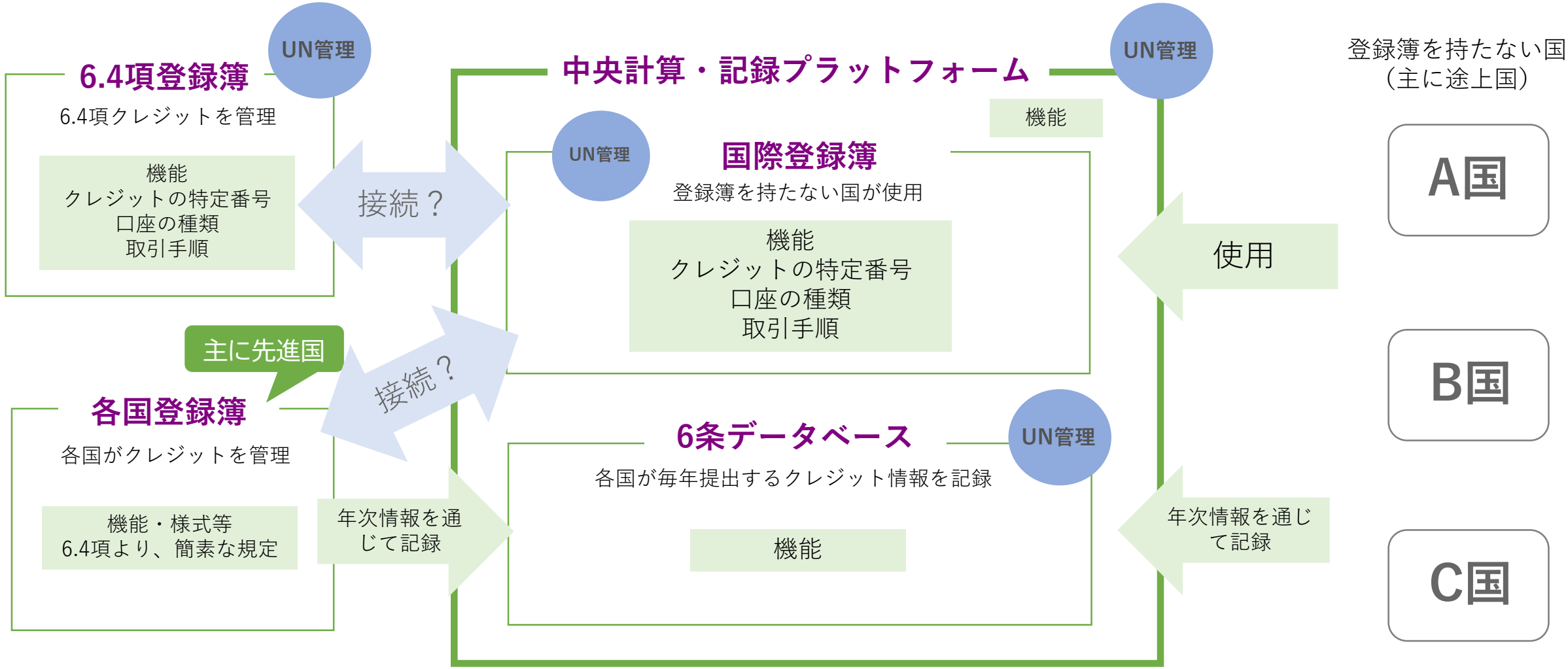

グラスゴーで合意済

（審査の時期は2025年が想定され、交渉時間が足りなければ来年持ち越し？）

| | |
|---|---|
| **Who？** | UNFCCC事務局によって選定された審査員（過去にUNFCCCの審査経験者が望ましい） |
| **How？** | **ガイドラインに従って審査を実施し、報告書を作成（COP27で決定予定）** |
| **What?** | 6条に参加する国が提出した情報（初期報告、定期情報） |
| **When?** | 早くて2025年？、2027年、2029年、2031年 |
| **Where?** | 集中審査：審査員が1か所に集まり審査<br>机上審査：リモートで審査 |
| **Why?** | 6条参加国から提出された情報に間違いがないかチェックするため。 |

# ポイント3：インフラ

## クレジットを管理するシステムの基本的な仕様を決める！



# 本日の流れ

1 2022年のカーボンクレジットの動向と重要なポイント

2 パリ協定6条交渉

3 パリ協定6条2項のポイント

4 パリ協定6条4項のポイント

# 6.4項のおさらい

## 6.4項：新たな国連管理のクレジット制度（クリーン開発メカニズム（CDM）の後継版）

| | CDM | 移管 | 6.4項 |
|---|---|---|---|
| 最高意思決定機関 | **CMP**<br>（京都議定書締約国会議） | | **CMA**<br>（パリ協定締約国会議） |
| ルール策定機関 | **CDM理事会** | | **6.4監督機関** |
| 登録プロジェクト | **7,885** | | **0** |
| クレジット発行量 | **約22億トン** | | **0** |
| プロジェクトの種類 | 再エネ（風力、地熱、太陽光、水力など）、バイオマス、省エネ、フロン削減、$N_2O$削減、メタン回収、植林・再植林 | | **未定** |

38か国が準備中

略語：CMP（Conference of the Parties serving as the meeting of the Parties to the Kyoto Protocol）
CMA（Conference of the Parties serving as the meeting of the Parties to the Paris Agreement）

# 6.4項の制度の運営状況

**2022年監督機関の決定事項**
- 監督機関の実施規則
- 登録申請費用の設定
- 監督機関の2023年の作業計画（5回開催予定かつ、議題も多い）

**第3回監督機関で決定予定**
- 6.4項における追加性やベースラインの考え方
- 6.4項における除去活動

監督機関会合に関する情報
https://unfccc.int/process-and-meetings/bodies/constituted-bodies/article-64-supervisory-body/meetings-of-the-article-64-supervisory-body

主に6条交渉官

| メンバー | 代理 | 地域 |
|---|---|---|
| Mr. El Hadji Mbaye Diagne | Mr. Tirivanhu Muhwat | アフリカ地域 |
| Mr. Mkhuthazi Steleki | Mr. Alick Muvundika | アフリカ地域 |
| Ms. Maria AlJishi | Mr. Duan Maosheng | アジア太平洋 |
| Mr. Kazuhisa Koakutsu | Ms. Rajasree Ray | アジア太平洋 |
| Ms. Olga Gassan-zade | Ms. Maia Tskhvaradze | 東ヨーロッパ |
| Mr. Piotr Dombrowicki (副議長) | Mr. Imre Bányász | 東ヨーロッパ |
| Mr. Charles Hamilton | Mr. Derrick Oderson | 中南米 |
| Mr. Felipe De León Denegri | Mr. Eduardo Calvo | 中南米 |
| Mr. Martin Hession | Ms. Emily Mathias | 西欧その他 |
| Ms. Molly Peters-Stanley | Mr. Simon Fellermeyer | 西欧その他 |
| Mr. Gebru Jember | Mr. Manjeet Dhakal | 後発開発途上国 |
| Ms. Kristin Qui (議長) | Mr. Benedict Chia | 小島嶼国 |

出典：https://unfccc.int/process-and-meetings/bodies/constituted-bodies/article-64-supervisory-body

# ポイント1：CDMの移管

| CDM | 6.4項 |
|---|---|

## プロジェクト活動の移管

クレジット期間が有効なプロジェクト
**3,316**
（2021年1月1日時点）
*UNFCCC事務局　資料

登録CDMプロジェクト
**7,885**

移管 → ？？？

但し、ホスト国は移管プロジェクトの種類を公表することが必要。

**ホスト国によって移管可能なプロジェクトが異なる？**

- 移管後、クレジット期間は最大5年
- クレジット期間は2021年1月1日まで遡及可能
- その他、6.4項のルールに従う必要有

6.4項監督機関が作成する移管申請手続きに従う

## クレジット（CER）の移管

**CDM登録簿**（UN管理）
CDMクレジットを管理
CER

移管
CMPの決定に基づく

**6.4項登録簿**（UN管理）
6.4項クレジットを管理
6.4ERs
Pre2021 unit?

# ポイント2：Share of Proceeds（SOP）

費用のことを指します

## 手続き費用
（SOP for administrative expenses）

**第2回　6.4項監督機関で合意済**

| | |
|---|---|
| 登録申請費用 | 年間平均排出削減量・除去量 |
| 最大2,000米ドル | 15,000 tCO2eまで |
| 最大6,000米ドル | 15,001 ～50,000 tCO2eまで |
| 最大 12,000米ドル | 50,001 tCO2e以上 |
| 免除 | 後発開発途上国・小島嶼国 |

- 登録後の更新申請費用・変更申請費用は、登録申請費用と同水準
- クレジットの発行申請費用は、1t$CO_2$eあたり、最大0.20米ドル

## 適応費用
（SOP for adaptation）

**グラスゴーで合意済**

適応へ支援するために、クレジット発行時に5%を徴収

現金化する方法がポイント？

# 6条実施に重要なポイント

## 1 2023年以降、参加国の6条実施体制の強化が必要

6条担当決定（6.2/6.4）

報告体制

審査員育成

報告書作成

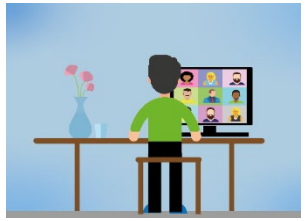
登録簿の整備

6.4実施の国内手続き

相当調整

## 2 体制強化のための能力開発支援が必要

日本や国際機関が能力開発支援を準備。
COP27で様々な機関が支援を発表予定。

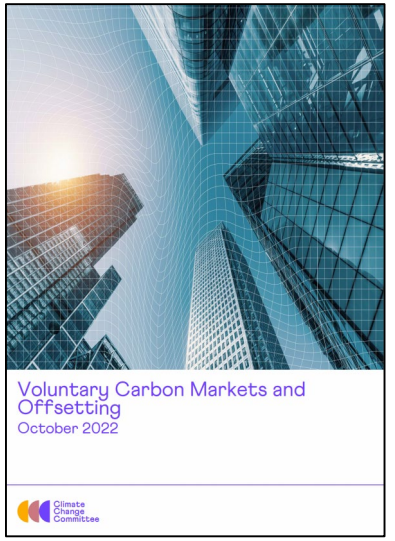


**環境省主催イベント＠日本パビリオン**
**11/16 13:00～６条実施パートナーシップ立ち上げイベント**

# 参考（英国と豪州　政府関係機関の報告書）

**英国気候変動委員会（Climate Change Committee：CCC）が10月13日に自主的炭素市場とオフセットに関する報告書を発表。CCCは、海外クレジットの使用に警鐘を鳴らしている。**

- 自主的炭素市場（VCM）は将来的にネット・ゼロに対応する可能性があるが、現状では大きなリスクがある。
- 政府は、カーボンクレジットの完全性を確保するための措置を講じる必要がある。
- カーボンクレジットを生み出すプロジェクトは、炭素以外の影響も考慮することが必要。




出典：Climate Change Committee 報告書　https://www.theccc.org.uk/publication/voluntary-carbon-markets-and-offsetting/

**豪州 気候変動監督庁（Climate Change Authority）が国際的なオフセットの見直しに関する報告書を発表。**

- クリーン開発メカニズム（CDM)によるクレジットは2025年までに段階的に廃止されるべき。
- その他のタイプのクレジットについて、現時点では引き続き対象とすべきであるが、市場に参入する他の制度と合わせて定期的に見直す必要がある。
- その他、二重計上の防止、環境十全性、透明性の重要性を指摘。

出典：Climate Change Authority 報告書　https://www.climatechangeauthority.gov.au/publications/2022-review-international-offsets

# ご清聴ありがとうございました。

気候変動とエネルギー領域 / 副ディレクター

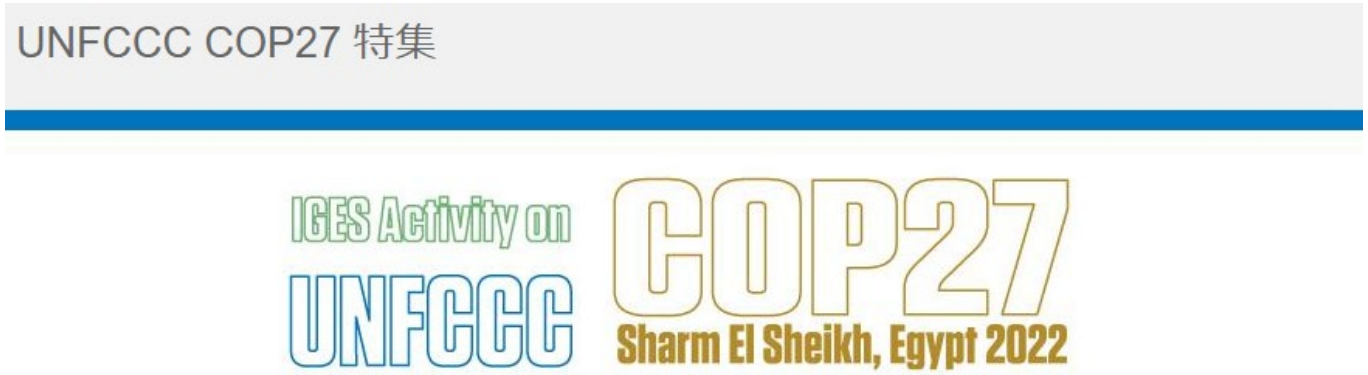
**髙橋健太郎**

IGES Institute for Global Environmental Strategies
公益財団法人 地球環境戦略研究機関

# 参考資料

# （COP27についてもっと知りたい方のために）

# COP27関連情報




## COP27期間中のIGESの活動を発信！

ウェブページリンク
https://www.iges.or.jp/jp/projects/cop27

## IGESツイッターで情報発信していきます！
## @IGES_JP

# COP27直前ウェビナー

**約4,300名の登録**
**ありがとうございます！**

見逃した方こちらから！！　https://www.youtube.com/c/IGESjapan/videos

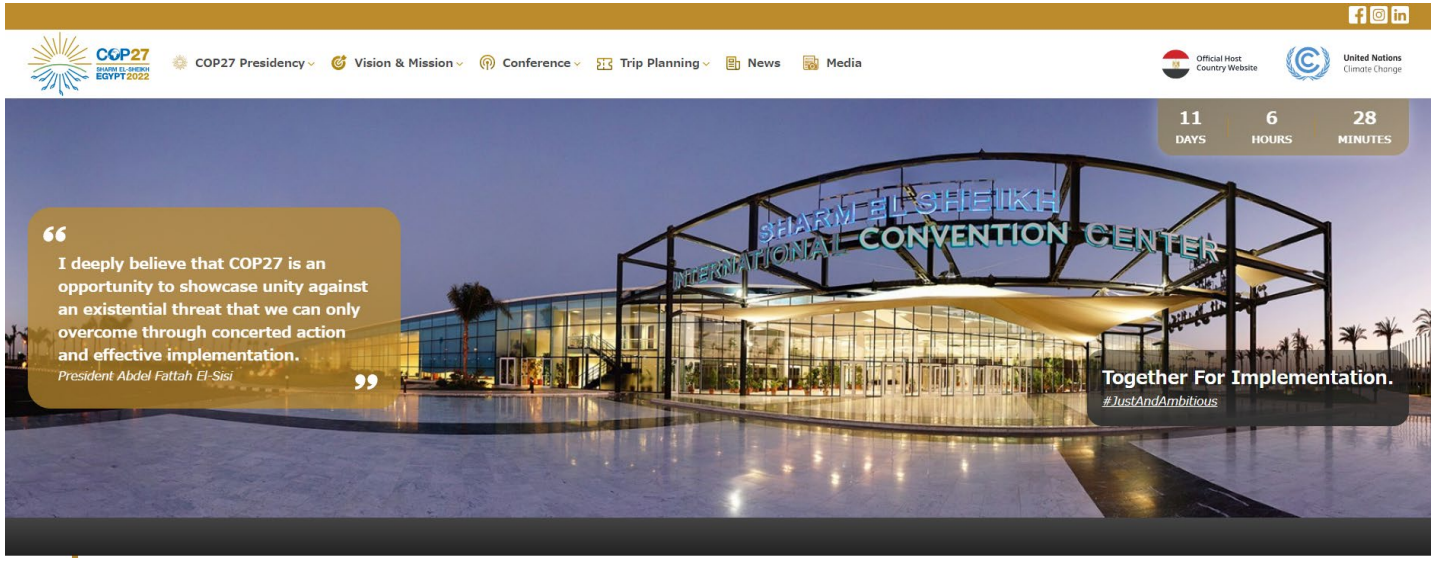
10/25 第4回 脱炭素化に向けた最新動向

10/20 第3回 グローバル・ストックテイクとは

10/11 第2回　変わりゆく資金フロー

10/4 第1回　適応・損失と損害

# COP27関連情報

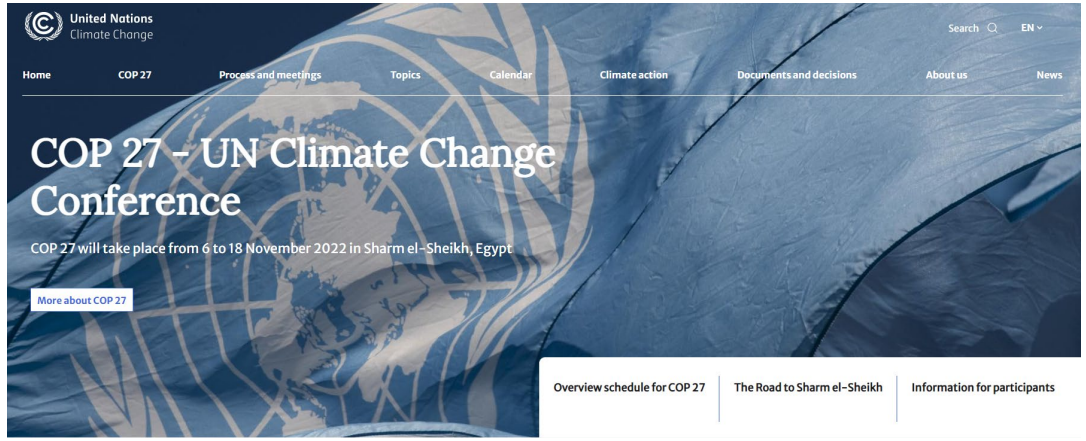



エジプト政府　COP27ホームページ（https://cop27.eg/#/）

- COP27の基礎情報を発信。ツイッター（@COP27P）でも公式アカウントがあり、フォローしておくと最新情報を入手可。
- COP27専用アプリもダウンロードしておくとよい。
- COP27議長が発表したプログラム
https://cop27.eg/#/presidency/events

Apple App StoreかGoogle Play Storeでダウンロード可能

# COP27関連情報




11月7～12日まで

ブース番号31にて、国立環境研究所/リモート・センシング技術センター/IGES共同で、ブースを出展。

UNFCCC ホームページ（https://unfccc.int/cop27）

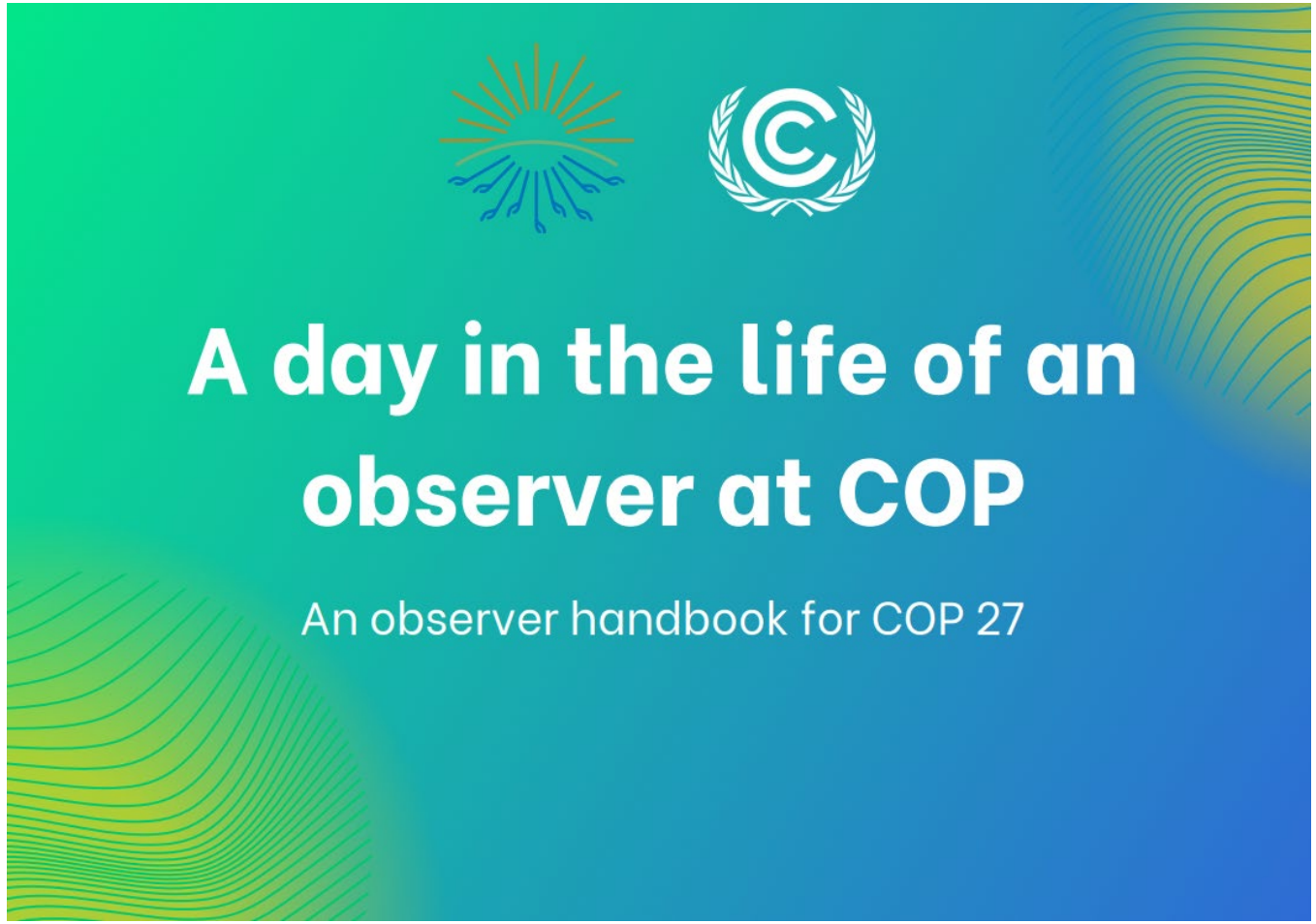
- 国連気候変動枠組条約事務局として、COP27に関する公式情報を発信。COP27決定文、交渉テキスト、首脳級・閣僚級が発信するステートメントなどを入手可能。
- UNFCCC事務局のツイッターアカウント（@UNFCCC）もぜひフォローを！

UNFCCC　公式イベント情報
（https://seors.unfccc.int/applications/seors/reports/events_list.html?session_id=COP%2027）

展示一覧
（https://seors.unfccc.int/applications/seors/reports/exhibits_list.html?session_id=COP%2027）

COP27 全体スケジュール
（https://unfccc.int/sites/default/files/resource/COP27_OS_18Oct2022.pdf）

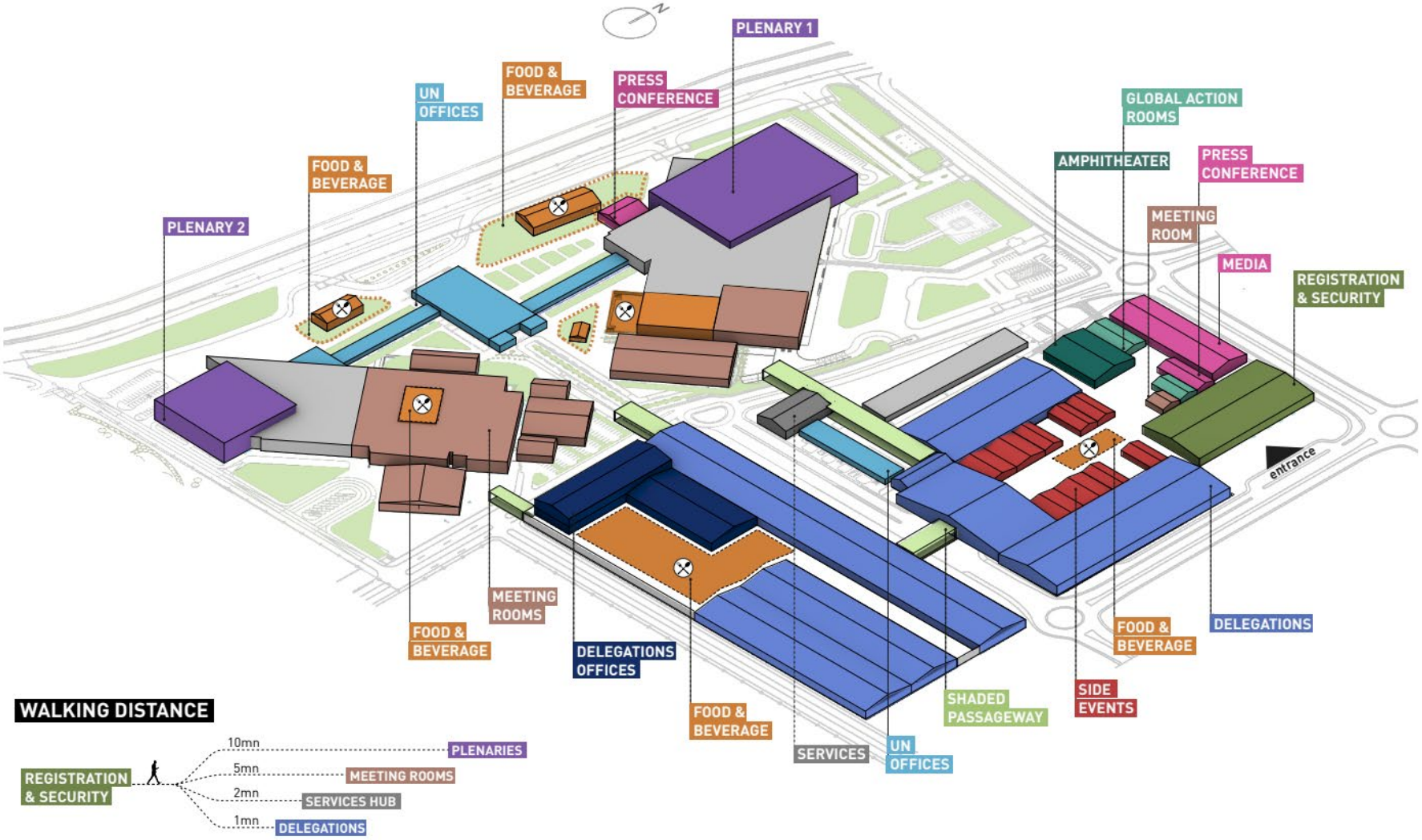
# オブザーバー向けCOP27ハンドブック




COPの“いろは“を解説

出典:　UNFCCCウェブサイト https://unfccc.int/sites/default/files/resource/Handbook%20for%20COP27.pdf

# COP27会場地図




出典:　UNFCCCウェブサイト https://unfccc.int/sites/default/files/resource/COP27_venue-map.pdf

# 日本パビリオンの情報

ウェブサイト

http://copjapan.env.go.jp/cop/cop27/

パビリオン　セミナー情報

http://copjapan.env.go.jp/cop/cop27/exhibition/

# COP27　結果速報ウェビナー

今後のイベント

2022年11月25日
気候変動ウェビナーシリーズ
COP27結果速報ウェビナー

COP27の議論のポイントと結果、そして今後の展望について研究員らが解説します。

Location: 三浦郡葉山町　　Languages: 日本語

参加登録受付中
https://www.iges.or.jp/jp/events/20221125

**11月25日（金）14:00-15:30**

プログラム

| | テーマ | 発表者 |
|---|---|---|
| 14:00-14:10 | 総論 | 田村 堅太郎　気候変動とエネルギー領域 プログラムディレクター |
| 14:10-14:20 | 適応・損失と損害 | 椎葉 渚　適応と水環境領域　研究員 |
| 14:20-14:30 | 資金 | 大田 純子　北九州アーバンセンター 研究員 |
| 14:30-14:40 | GST | 津久井 あきび　気候変動とエネルギー領域 プログラムマネージャー |
| 14:40-14:50 | パリ協定6条 | 高橋 健太郎　気候変動とエネルギー領域 副ディレクター |
| 14:50-15:30 | 質疑応答 | |

# ISAP2022

https://isap.iges.or.jp/2022/jp/index.html

全体会合　　：11月28日（ハイブリッド）
テーマ別会合：11月29日～12月5日（オンライン）